

酒々井町郷土研究会々報

第83号

平成9年1月1日発行
酒々井町郷土研究会
広報

宝亀の古鐘

加川 治良

昨年発行された『千葉県の歴史』(資料編・古代)の掲載写真で、あの宝亀の古鐘を久しぶりに見ました。現在は佐倉の国立歴史民俗博物館に重要文化財として所蔵されていて、随分綺麗になつてもう手の届かない向こうにいつてしまったのですが、今から二五年前、わが家の庭に置いて、拓本を取るため泥まみれの鐘をタワシでゴシゴシ洗つたことが甦ってきました。

一九六九年(昭和四十四年)酒々井町の文化財審議委員会が中心になり、「酒々井町地方史研究会」が発足しました。会長は飯沼喜重、副会長に相京晴次・藤崎善学の両名、幹事に押尾忠他四名、会員三三名。これが「郷土研究会」の前身です。地方史研究会の活動として酒々井町全域の文化財調査班が作られ、

酒々井町全域の文化財調査が始まりました。班長は古川正・相京晴次、班員は沖田善三郎他五名、他に地方史研究会会員です。各地区の出土品の調査を行い、これらが後日『酒々井町史』の基本史料になりました。(現在手元に残っている資料から記録)

新春のおよろこびを

申し上げます

ええ



宝亀の古鐘の発見は、一九七一年(昭和四十六年)の夏、この調査班がどこかの調査が早く終わり、折しも造成中だった成田ニュータウンでの古墳発掘現場を見学しようと、沖田・相京・加川・小坂泰久・高橋健一の五名で造成地をぐるりと回った時でした。造成地は鉄柵で囲まれ、中に入らず、外から凄いと叫びながら見るだけでした。造成地の八代から北須賀に下る三叉路

の山田商店(酒屋)前に車を止め、なにか冷たいものを飲むと店に入りました。造成地で土いじりをしたので手を洗おうと店の裏の井戸端に行くと、ここで泥まみれの半分よじれた無残な小さな鐘が目に入り「なんだあれ」と沖田さん呼びました。奇跡的に銘文の書かれた部分は無事で「宝亀」とはつきり読めます。相京さんは見るなり「廣もの」と言いきりましたが、陰刻なら後刻される事もありますが、これは陽刻ですから鑄造の時のままの銘文です。廣ものとは言えませんが、運よくそこには掘り出したオベレクタがいて、どうするんだと聞くと「鉄屑屋にでも売るか」と言うのです。それなら譲ってくれ」と言うので「ああいいよし」と言うので酒代としてお札を渡しました。帰り道でも廣ものか本ものかの論争が続きました。「宝亀」ではないかにも古すぎるのです。銘文を読みます。

以宝亀五年
二月十二日
肥前国佐嘉 佐嘉郡一佐賀郡
郡持寺之鐘 持寺 一橋寺
「肥前」の鐘がどうして成田に来たのだろうか? 疑問だ

らけてすぐさま成田史料館の大野政治さんに発見の報告をし、朝日新聞、千葉日報の記者同席で大野さん・藤下昌信さんに見て貰い、八月三日に新聞報道がありました。古鐘のことは、すべで大野さんに一任し、成田史料館で保存されることになりました。

宝亀の古鐘は全国で現存する四番目に古い鐘であり、貴重な文化財として文化庁に移されたのは七年目の一九七五年(昭和五十年)のことです。その七年間の古鐘の流転についてはいろいろあります。もし、発掘現場での発見なら、発掘を担当していた大学の発掘責任になるとか、県の文化課からは、県で発掘したことにして欲しいといわれるなど大変な騒ぎがありました。発見者は貴重な文化財が残ったこと、でいいと思っていました。(古鐘発見については『成田史談』二二号に詳しく大野さんが書いています。)

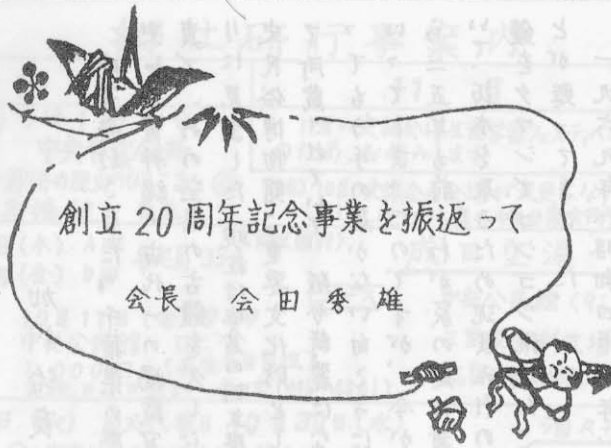


銅鐘(宝亀5年在銘)
高さ41.8cm

(国立歴史民俗博物館所蔵)

郷土研究会は二〇周年記念事業として町の歴史を深く知り、愛町精神の一助になればと一月には『印旛郡誌』より酒々井町誌部分を抜粋し、会員各位に配布いたしました。

八月十一日には、国立歴史民俗博物館長石井進先生に講師を



創立20周年記念事業を振り返って

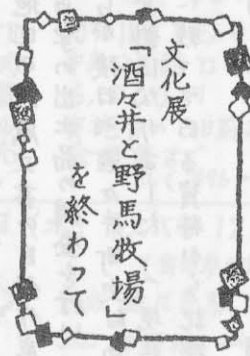
会長 会田 秀 雄

お願いし、「中世の房総を考えろ」と題して講演会を行いました。吉岡町長を始め綿貫教育長、町内外の方々多数お見えになり盛会を極めました。

記念事業の最終は町のメインである佐倉七牧、酒々井と野馬牧場し展をもち、十一月六日

より九日まで生涯学習フェスティバルに参加し、多大な成果を納め郷土研の面目を果すことが出来ました。これらの事業の陰には役員の皆様の東奔西走し、昼夜並々ならぬ献身的な協力のお陰と深く感謝し御礼を申し上げます。

なお、平成九年度は鋭気を養い十年度の文化祭に備える事としました。その節は皆様の旧に倍してお力を拝借し、さすが郷土研究会と思われるよう努力いたしましたと思っております。何卒宜しくお願いいたします。



文化展
「酒々井と野馬牧場」
を終わって

郷土研究会創立二〇周年の記念文化展「酒々井と野馬牧場」が、旧年十一月六日から九日までの四日間、中央公民館会議室に於いて開催されました。

会場には、江戸時代に野馬牧場経営の拠点であった、酒々井の島田長右衛門家に伝わる貴重

な文書・絵図類や、成田市立図書館より拝借した「佐倉七牧大絵図」など、日頃はお目にかかれぬ史料が公開され、加えて会員達手作りの大作「佐倉七牧大絵図復元図」や、会員所蔵の掛軸や茶器も並んで興を添えました。

平日で、しかも他のサークルの文化展もない単独開催という条件にもかかわらず、延べ二〇〇人を越す方々に御来場いただき盛会裡に終わることが出来ました。この展示で、現在も町の近辺に残る野馬牧場に係わる施設や他にかげがえのない「島田家文書」の保存の大切さへの御理解が深まったと何より存じます。

なお、一五年来、三里塚御料牧場記念館へ貸出中の島田家「佐倉七牧大野地図」を、この文化展に里帰りさせたいと交渉しましたが、諸事情で実現出来なかったのは残念でなりません。これを機に会員の皆様のさうななお力添えを得て、一日も早い返還とよりよい保存がなされるよう町当局への働きかけを続けていきたいと思えます。

開催にあたって御協力いただいた

きました方々に厚く御礼申し上げます。



創立20周年記念文化展
酒々井と野馬牧場

酒々井町郷土研究会

郷土研日誌		10月~12月
月日	内 容	参加者数
10/19	史談会「史料に読む酒々井の歴史のひと」⑮	14
10/24	名勝探訪 A班 成田空港・茨山方面	25
10/25	名勝探訪 B班	25
10/29	野草観察 酒々井総合公園 周辺	15
11/6 11/7 11/8 11/9	生涯学習フェスティバル参加 郷土研究会創立20周年記念文化展 「酒々井と野馬牧場」	210
11/14	原外見学会 振木・馬頭方面	43
11/4	名勝探訪 赤坂方面	34
11/7	史談会「史料に読む酒々井の歴史のひと」⑯	18
11/27	会報発送	23

身近な歴史の再発見

三浦久美子

古墳の多い千葉県の中でも、芝山町一帯は遺跡の宝庫。

小雨の中、バスを降り、芝山仁王尊の奥に立つ三重の塔は県内でも数少ない塔婆建築として有名です。……離発着する飛行機のお腹を見上げながら、会長さんの説明の後、新しくオープンしたばかりの芝山ミュージアムの中には古墳群からの出土品をはじめ、多くのにはわや土器など考古遺物が整然と展示されています。武士や農夫や貴族だったのかしらと思われる人、美しくユーモラスで又どこどなく、もの悲しげな表情。犬や馬などユニークで、気の遠くなるような古代(六世紀頃という事です)の房総の大地に、こんな素晴らしい文化が生まれていたのでしょうか。生活の移り変わり、人と動物との係わり、一つ一つゆっくり、ついにねいに見てまわり太古の人々の生活に思いをはせました。

タイムカプセルから抜け出て、

三里塚御料牧場記念館の見学へ。館長さんの簡単な説明を受け、ビデオで牧場の大部分が空港になった事を知りました。公園内には貴賓館、文学碑等があり、桜の花木が見事でした。落葉を踏みながら、花の咲く頃もう一度訪れてみたいと思いました。

空港、航空博物館と回って、酒々井に移り住んで十四年余り、まだ知らない所がいっぱいあり、身近にこんないい所があったのだと再発見しました。

ご一緒させていただいた方々との楽しいふれあいと共に秋の小さなバスの旅。雨も止み、心さわかやかに帰路につきましました。



泉をかこんで一休み、くんでもつきない泉のようによもやまばなしが、つづきます。どうぞあなたもお仲間

野草観察会に参加して

犬島 正子

前日の真冬を思わせる寒さと夜半の雨の音にお天気を心配して目覚めた朝は、暖かな曇一つない秋晴れでした。

今年の「タコノアシ」はどんな様子かなと楽しみに公民館へ集合。会長さんは風邪をひかれたとか、おみえになりませんでした。早く治して下さいね。

酒々井総合公園周辺は紅葉の盛り、青い空に、枯れた松にからみついた紅が鮮やかに映えていました。亀井さんに土手や田んぼの畦に咲く草花の名前を覚えていただきながらの散策、今聞いた名前が後の方ではもう違う名前になっていたりで大笑い。

我が家の草取りの時よく見かける草が「ヒメムカシヨモギ」何でこんなヒメらしくないのがヒメなの？昔は「ヒメ」だったのだから「ムカシ」とついでいるのでしよう。冗談を言って又、

大笑い。でも今回はこの名前をしっかり覚えました。似ているのが「オオアレチノギク」です。「アユノハナワラビ」等めずらしいものも教えていただきました。

公園内の湿地に下岩橋から移植された「タコノアシ」は、今年も真っ赤を通り越してしまいで、来年こそは、きれいに色づいた頃に見たいものです。帰りに墨に廻って「サラシナシヨウマ」の花を見ました。話ではよく聞いていましたが見るのは初めて。道路から一段高くなった杉林に咲く真っ白な花。一本についている花数も多く、圓錐などの写真よりもずっと立派で美しいものでした。次の野草観察会を楽しみにしています。

会計報告

● 県内見学会 (成田空港・芝山方面)		
10月24日・25日 参加者 46名		
収入	1000円×46	46,000円
支出	町バス使用料 20,600円	
	駐車料金外 10,000円	
	返金(200×46) 9,200円	
	計	39,800円
	残金 6,120円	郷土研へ
● 県外見学会 (栃木・馬頭方面)		
11月14日 参加者 43名		
収入	会費 6,500円×43	279,500円
支出	八街観光へ 245,900円	
	入場料外 17,500円	
	返金 300×43	12,900円
	計	278,300円
	残金 3,120円	郷土研へ

郷土研行事業案内

1月～3月

	1月	2月	3月
史談会	1月は休講 <small>お知らせ 2月の史談会の第1週の上曜日を第2週目の上曜に変更します。</small>	8日(土) 午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」 ^⑰ 講師 高橋健一先生	1日(土) 午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」 ^⑱ 講師 高橋健一先生
名勝探訪	1月19日(日) 雨天代替	2月2日(日) JR酒々井駅 6:30集合 <u>鎌倉方面</u> 酒々井 三 (大船行・大船乗りかえ) 三 鎌倉駅 三 江の電・極楽寺駅 三 長谷寺 三 (7:02) <ホリデー切符利用> 光則寺 三 高德院(鎌倉大仏) 三 長谷駅 三 鎌倉駅 三 酒々井 15:00頃(自由解散) ◎(約5キロ歩きます。行程の一部変更有り。)	
野草の会	2月25日(火) 12:00会食開始 <u>七草粥を食べる会</u>	会場 中央公民館講堂 会費 700円 定員 80名 受付日 1月26日 総会当日 公民館ロビー	お手伝いいただけますのは9:00までに調理室に来て下さい。お待ちしております。
(県内見学会改め) 日帰り見学会	3月26日(水) 雨天催行 <u>関宿・野田方面</u> 会費 4,500円 定員 45名 申込日 総会当日(1/26) 12:30より受付 催行日の3日前まで キャンセル連絡先 会田雄竜	出発 8:00 中央公民館 (ハ街観光バス) コース 酒々井 — 印西 — 布施弁財天 — 柏傍 当積込み) — 雪印バター工場(昼食) — 実相寺 — 鈴木實太郎記念館 — 県立関宿城 博物館 — 柏 — 佐倉 — 酒々井(17:20)	
平成9年 第21回総会	1月26日(日) 午後1時30分開会 会場 酒々井町中央公民館講堂 会費 年 1,000円(平成9年1月～12月) 受付場所 公民館ロビー 受付時間 12:30より受付	議事 ・平成8年度事業報告及び決算の承認について ・平成9年度事業計画案及び予算案について ・役員改選について ・その他	皆さ、お誘い合わせて、ご参加下さいますようお願い申し上げます。 入会・退会の方も受け付けます。

見学会案内

名勝探訪

鎌倉方面

今年も初詣ではホリデーパスで鎌倉へ行きます。

茅葺き屋根の簡素な山門の極楽寺や坂東三十三観音第四番札所の長谷寺、ここから眺める由比が浜の景色はすばらしいものです、みやげ物店、食事処や喫茶店などが並ぶ長谷通りで昼食し、のんびりとまわり散策しながら高德院へ行きます。ここではやさしいほえみで静かに鎮座している大仏を拝観して、また江戸電で鎌倉駅にもどり、ここで自由解散となります。時間のゆるす方は駅の周りを散策するのも又楽しいと思います。



あとかぎ

船運の重要な拠点でありました。利根川と江戸川に抱かれた細長い所で、そこにそびえ立つ資料館、そこから眺める景色はふと昔を思わせるようです。はらしいです。又布施の弁財天、雪印バター工場、鈴木實太郎記念館などを見学したいと思えますので、春先の一日をのんびりと散策してきましょう。

新年あけましておめでとうございます。皆様さまにおかれましては、よきお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。三月二十二日から快速停車もふえ、夢が又実現します。夢をもって頑張りますよう。旧年の生涯学習フェスティバルの文化展では、大勢の方のご来場で盛りあかりました。今年の文化展については小休止ですが、他の色々な行事について一先懸命企画いたしますので、よろしくお願いたします。口開けは総会です。多数のご参加の程お待ちしております。

日帰り見学

3/26(水) 雨天代行

関宿・野田方面

日がえりコースは景の最北端、関宿方面で江戸時代には